

ほうみょう

# 法名

【6月号】



## 【法名とは?】

「法名」とは、生前中に帰敬式（ききょうしき）を受けて、仏弟子としての名前を新たにいただくことです。一般的には、葬儀の前に付けることが多いのですが、本来は、存命中にいただくことが本旨となっています。

「法名」をいただくことは、釋（しゃく）の一字をいただくことであり、つまり、釈尊（お釈迦さま）の弟子となることを意味します。具体的には、仏法を聴聞し、念仏申す生活をする事です。そのような宗教的生活をする時、その人の喜びや苦しみ、そして、悲しみや辛さの人生全体が、仏道修行に転成（てんじょう）するのです。



帰敬式の様子



## 【「戒名」(かいみょう)とちがうの?】

「戒名」とは定められた戒律を守ることがを仏前で誓い、仏弟子となることです。つまり、「戒名」は、仏弟子になる時に、その人の救いに条件をつけてしまいます。

親鸞聖人（しんらんしょうにん）の問題は、戒律を守らなければ仏弟子になれないという厳しい条件を付ければ、その条件に漏れる人間の救いはどうなるのかということでした。

「法名」とは、無条件の救いを意味し、お釈迦様の仏弟子としての名告り（なのり）であります。

## 【「帰敬式」を受けましょう】

現在、真宗大谷派では本山に限らず、地元のお寺でも、三宝（仏・法・僧）に帰依し法名をいただく「帰敬式」を受式することができます。お手次のお寺さんにご相談いただき、ぜひとも「帰敬式」をお受けください。

## 今月の門徒さん

亡くなる寸前までお寺に想いを寄せた祖父の願いを受け継いで、推進員を志しました。ご本山での帰敬式で頂いた法名は「釋尼証淳」。

帰山後、家族で法名について語りあったことは思い出深く、皆の法名を額にして大事に仏間に掲げました。

祖父やご先祖様を通し、阿弥陀様に手を合わせる度に其方に心を馳せる私がおります。お陰様で阿弥陀様の御心に寄り添うことのできる有難い日々でございます。ご縁に深く感謝いたします。



ますだ あつみ  
益田 淳美さん

(第2組 正林寺)



## コラム



# ねんこう しょうこう 燃香と焼香について

## 真宗大谷派の お線香のあげ方・お焼香の仕方

**【燃香】** ねんこう …… 香は仏前をしょうこん 荘厳するために用います。燃香は土香炉のなかに敷いた香につけ火した  
ものですが、今では線香で代用するようになりました。



線香は香炉の大きさに合わせて折り、火をつけ、火のついた方を左にして灰の上にねかせて置きます。



真宗ではお線香を立ててあげることはしません。

**【焼香】** しょうこう …… 火種を入れたきんこうろ 金香炉に香をた 焚くことであり、主に法要・葬儀などで行います。

1



まず本尊を仰ぎみま。焼香卓の端に左手を添え、右手で香をつまみ香炉に2回入れます。



真宗では、つまんだ香を額までもっていき、いただくことはしません。

2



香の乱れを整えます。

3



合掌し、念仏を称えます。最後に合掌を解き、頭礼します。